

大人になるルール指南

本と出会う 本屋さんにて

北海道の札幌と釧路に4店あるコーチャンフォーは書籍、文具、CD、飲食店がそろった大規模な複合店。ミュンヘン大橋店は、約7600平方メートルの広さです。



藤原泰裕さん

コンセプトは「週末に家族で行こう」。それぞれが好きな売り場を楽しみ、疲れたらみんなでお茶してひと休み。そんな風に家族と一緒に楽しんでいる中高生の姿もよく見かけます。

若い人の間で、生き方の指針を示す本が売られています。その中でも、タイトル



『16歳の教科書』

に10代の年齢を入れた本が人気です。『16歳の教科書』(講談社・819円)は、人気コミック『ドラゴン桜』の公式副読本。藤原和博さん、金田一秀穂さんなど7人の「特別講義」が掲載されています。経営コンサルタントとして知られる船井幸雄さんの『13歳からのシンプルなき方哲学』(マガジンハウス・1260円)は、「友だちとの交流で成長できる」「一人では何もできない」などと伝えます。社会

札幌のコーチャンフォー大橋店 藤原泰裕支店長に聞く



本の売り場だけで約4千平方メートル。人気の本が100点以上、平台に並ぶ＝札幌市豊平区、御堂義乗撮影

学者の宮台真司さんの『14歳からの社会学』(世界文化社・1365円)も、

「社会とルール」「生と死」など、本当の大人になるためのルールをわかりやすく述べています。最近、古い文学作品が売れる「文学回帰」が起きています。そこで、古いけれど感動間違いなし！の3冊を紹介いたします。

『小さき者へ・生れ出する悩み』



『小さき者へ・生れ出する悩み』(岩波文庫・483円)に収められた「小さき者へ」は、妻を亡くした有島武郎が3人の息子にあてた手紙の体裁の短編。父親ってこんなことを考えてるんだと感じられるはずですよ。

武者小路実篤の青春恋愛小説『友情』(新潮文庫・380円)は、登場人物たちの熱く真剣に考える姿が今の時代に読むと新鮮です。最後は、海外の名作『ジャン・クリストフ』(ローラン著、豊島与志雄訳、全4巻、岩波文庫・7980円)です。貧しい音楽一家に生まれた少年が、音楽家を目指す物語。読破した後、思わず走り出したくなるほど元気になれる一冊です。

(談話構成・中津海麻子)